

2022年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月13日

上場会社名 株式会社秋川牧園 上場取引所 東
 コード番号 1380 URL <http://www.akikawabokuen.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋川 正
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 原田 良人 TEL 083-929-0630
 定時株主総会開催予定日 2022年6月24日 配当支払開始予定日 2022年6月27日
 有価証券報告書提出予定日 2022年6月27日
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期の連結業績（2021年4月1日～2022年3月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期	6,638	3.4	115	△56.4	237	△17.7	159	△6.1
2021年3月期	6,417	10.8	265	181.2	288	137.9	169	136.6

(注) 包括利益 2022年3月期 160百万円 (△22.8%) 2021年3月期 207百万円 (259.6%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年3月期	38.27	—	8.1	4.3	1.7
2021年3月期	40.77	—	9.3	5.5	4.1

(参考) 持分法投資損益 2022年3月期 ー百万円 2021年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期	5,593	2,035	36.4	487.68
2021年3月期	5,378	1,920	35.7	460.17

(参考) 自己資本 2022年3月期 2,033百万円 2021年3月期 1,918百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年3月期	364	△497	72	866
2021年3月期	785	△332	△144	926

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00	41	24.5	2.3
2022年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00	41	26.1	2.1
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00		65.1	

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,395	6.1	△31	—	12	△86.3	△6	—	△1.51
通期	7,100	6.9	53	△54.2	125	△47.3	64	△59.9	15.36

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）有限会社あきかわ牛乳

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無
④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数

2022年3月期	4,179,000株	2021年3月期	4,179,000株
2022年3月期	9,877株	2021年3月期	9,877株
2022年3月期	4,169,123株	2021年3月期	4,169,123株

(参考) 個別業績の概要

1. 2022年3月期の個別業績（2021年4月1日～2022年3月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期	6,602	3.4	213	△17.3	215	△30.3	151	5.9
2021年3月期	6,383	11.0	257	118.9	309	149.8	143	86.1

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期	36.41	—
2021年3月期	34.38	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期	4,740	1,881	39.7	451.41
2021年3月期	4,632	1,775	38.3	425.76

(参考) 自己資本 2022年3月期 1,881百万円 2021年3月期 1,775百万円

2. 2023年3月期の個別業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	3,385	6.4	17	△80.7	5	△92.8	1.31
通期	7,080	7.2	115	△46.7	53	△65.0	12.73

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	2
(4) 今後の見通し	3
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	3
3. 連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 連結貸借対照表	4
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	6
連結損益計算書	6
連結包括利益計算書	6
(3) 連結株主資本等変動計算書	7
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	8
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
(1株当たり情報)	11
(重要な後発事象)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度（2021年4月1日～2022年3月31日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は段階的に縮小していったものの、原材料価格の高騰、緊迫化するウクライナ情勢、急激な円安等、依然として先行き不透明な状況が続いております。その一方で、感染予防意識の高まりを背景とするライフスタイルの変化により、食材の宅配サービスに対する需要は引き続き高水準で推移しております。

当社グループにつきましては、2020年春の1回目の緊急事態宣言発出時の急激な販売増加の反動の影響により、前年対比では生産卸売事業の鶏肉の販売が減少しましたが、直販事業の販売が好調に推移したため、全体の売上高は増加いたしました。利益面につきましては、飼料価格の値上がりや、直販事業における会員募集費の積極的な投入、間接部門における販売費及び一般管理費の増加等により減益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、66億38百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益は1億15百万円（前年同期比56.4%減）、経常利益は2億37百万円（前年同期比17.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1億59百万円（前年同期比6.1%減）となりました。（なお、営業利益が経常利益と比較して少額になっておりますが、飼料価格の高騰時に備えた、国、飼料メーカー、生産者の積立金を財源とする飼料価格安定基金からの補填金収入（1億17百万円）を営業外収益で計上していることが主な要因であります。）

セグメントの業績は次のとおりであります。

（生産卸売事業）

生産卸売事業につきましては、2020年4～5月の急激な販売増加の反動の影響により、鶏肉の販売が前年を下回りましたが、冷凍加工食品及び鶏卵の販売が増加したため、生産卸売事業全体の売上高は微増となりました。利益面につきましては、飼料価格の値上がりや、鶏肉一次処理場の歩留率の低下等により減益となりました。

この結果、生産卸売事業の売上高は、49億96百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益は4億26百万円（前年同期比23.8%減）となりました。

（直販事業）

当社の食を中心とした安心・安全な食品を全国の個人の消費者に直接お届けする直販事業につきましては、新型コロナウイルスの影響や会員募集費の積極的な投入等により、会員数が順調に伸長したため、売上高は増加いたしました。利益面につきましては、会員獲得に向けた会員募集費の増加等がありましたが、売上高の増加や業務の効率改善等により増益となりました。

この結果、直販事業の売上高は、16億42百万円（前年同期比14.6%増）、営業利益は52百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

（資産）

当連結会計年度末の総資産は、前年同期に比べ2億15百万円増加して55億93百万円となりました。これは主に原材料及び貯蔵品の増加（1億27百万円）、及び有形固定資産の増加（1億1百万円）等によるものです。

（負債）

負債につきましては、前年同期に比べ99百万円増加して35億58百万円となりました。これは主に、短期借入金の増加（2億4百万円）、流動負債その他の増加（89百万円）、未払法人税等の減少（86百万円）、及び長期借入金の減少（83百万円）等によるものです。

（純資産）

純資産につきましては、前年同期に比べ1億15百万円増加して20億35百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加（1億14百万円）によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前当期純利益が2億25百万円（前連結会計年度は2億76百万円の純利益）となり、減価償却費（3億84百万円）、長期借入れによる収入（2億80百万円）、短期借入金の純増（1億50百万円）等から、有形固定資産の取得による支出（4億97百万円）、長期借入金の返済による支出（3億9百万円）、棚卸資産増加額（1億65百万円）等を控除した結果、前連結会計年度末に比べ60百万円減少し、8億66百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は3億64百万円（前連結会計年度は7億85百万円の獲得）となりました。

これは主として、税金等調整前当期純利益（2億25百万円）、減価償却費（3億84百万円）等から、棚卸資産の増加額（1億65百万円）、法人税等の支払額（1億53百万円）等を控除した結果によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は4億97百万円(前連結会計年度は3億32百万円の使用)となりました。

これは主として、有形固定資産の売却による収入(7百万円)等から、有形固定資産の取得による支出(4億97百万円)等を控除した結果によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は72百万円(前連結会計年度は1億44百万円の使用)となりました。

これは主として、長期借入れによる収入(2億80百万円)、短期借入金の純増(1億50百万円)等から、長期借入金返済による支出(3億9百万円)等を控除した結果によるものであります。

(4) 今後の見通し

新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に縮小する傾向にありますが、世界的にインフレ傾向が進む中で、円安とウクライナ情勢の影響が加わることで、飼料をはじめとする生産コストの大幅な上昇とその長期化のリスクが高まっています。

当社グループでは、顧客の理解をいただく中で製品の値上げを進めておりますが、当社グループのブランド力と成長力をさらに高めていくことがその基本的な対策であると考え、今年2年目となる中期計画に基づき、引き続き様々な課題に積極的に取り組んでまいります。

(4つの基本戦略)

- ① FARM進化戦略～生産、加工、販売などの機能をさらに進化させます。
- ② ファン化戦略～知名度向上と秋川牧園ファンを増やす取り組みを進めます。
- ③ 成長基盤強化戦略～さらなる成長に向けて人、設備、ITなどの基盤を強化します。
- ④ SDGs戦略～サステナビリティを重視する価値観の変化を事業の追い風にします。

次期の業績の見通しとしましては、売上高につきましては生産卸売事業、直販事業ともに増収を見込んでおります。利益面につきましては製品の値上げを進めるものの、飼料価格のさらなる高騰と安定基金からの補填金収入の縮小、その他原材料や燃料コストの上昇、直販事業における会員募集費の積極的な投入の影響等により、減益の見込みとなっております。予想数値は、売上高71億円(当連結会計年度比6.9%増)、経常利益1億25百万円(当連結会計年度比47.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益64百万円(当連結会計年度比59.9%減)となっております。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは、株主の皆様への利益還元を重視し、かつ、秋川牧園ブランドの確立と中長期的な成長に向けての積極的な投資と堅実な財務体質を両立することを基本方針としております。

当期(2022年3月期)につきましては、上記の方針を踏まえ、1株10円の配当とさせていただきます。また、次期(2023年3月期)につきましては、上記の方針を踏まえ、1株10円の配当を継続させていただきます。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	926,888	866,182
受取手形及び売掛金	702,967	—
売掛金	—	716,237
商品及び製品	274,925	239,628
仕掛品	164,305	239,594
原材料及び貯蔵品	78,173	205,750
未収入金	119,352	96,457
その他	47,079	75,158
貸倒引当金	△3,390	△3,058
流動資産合計	2,310,301	2,435,950
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,686,263	2,851,435
減価償却累計額	△1,625,618	△1,712,178
建物及び構築物 (純額)	1,060,644	1,139,256
機械装置及び運搬具	1,822,299	1,885,287
減価償却累計額	△1,339,693	△1,438,230
機械装置及び運搬具 (純額)	482,606	447,056
土地	1,022,570	1,024,727
建設仮勘定	64,077	125,476
その他	346,649	356,769
減価償却累計額	△230,714	△245,847
その他 (純額)	115,934	110,921
有形固定資産合計	2,745,833	2,847,439
無形固定資産		
のれん	16,113	12,465
その他	25,381	21,455
無形固定資産合計	41,494	33,920
投資その他の資産		
投資有価証券	152,651	152,738
長期貸付金	8,191	6,575
繰延税金資産	100,260	98,711
その他	19,762	18,185
投資その他の資産合計	280,864	276,210
固定資産合計	3,068,193	3,157,570
資産合計	5,378,494	5,593,521

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	399,605	355,329
短期借入金	1,009,341	1,213,918
リース債務	7,129	7,943
未払法人税等	102,757	16,174
賞与引当金	38,900	41,806
その他	413,752	503,531
流動負債合計	1,971,486	2,138,704
固定負債		
長期借入金	1,119,117	1,035,199
リース債務	21,019	16,745
繰延税金負債	5,675	4,737
退職給付に係る負債	275,532	291,933
役員退職慰労引当金	65,527	70,764
固定負債合計	1,486,872	1,419,379
負債合計	3,458,358	3,558,084
純資産の部		
株主資本		
資本金	714,150	714,150
資本剰余金	553,441	553,441
利益剰余金	589,388	704,041
自己株式	△5,880	△5,880
株主資本合計	1,851,099	1,965,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67,405	67,453
その他の包括利益累計額合計	67,405	67,453
非支配株主持分	1,630	2,231
純資産合計	1,920,136	2,035,437
負債純資産合計	5,378,494	5,593,521

（2）連結損益計算書及び連結包括利益計算書
（連結損益計算書）

（単位：千円）

	前連結会計年度 （自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）	当連結会計年度 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）
売上高	6,417,643	6,638,727
売上原価	4,673,139	4,929,455
売上総利益	1,744,504	1,709,271
販売費及び一般管理費	1,478,950	1,593,593
営業利益	265,554	115,677
営業外収益		
受取利息	236	184
受取配当金	1,243	1,315
受取保険金	227	—
補填金収入	18,726	117,107
補助金収入	4,838	3,728
その他	10,254	10,321
営業外収益合計	35,525	132,656
営業外費用		
支払利息	11,846	10,931
その他	863	32
営業外費用合計	12,709	10,964
経常利益	288,370	237,370
特別利益		
固定資産売却益	1,270	3,322
受取保険金	7,537	—
補助金収入	—	4,373
受取補償金	—	52,041
特別利益合計	8,808	59,737
特別損失		
固定資産売却損	564	1,183
固定資産除却損	2,131	2,082
減損損失	13,570	2,842
災害による損失	4,719	—
固定資産圧縮損	—	4,299
鳥インフルエンザによる損失	—	61,254
特別損失合計	20,985	71,662
税金等調整前当期純利益	276,193	225,445
法人税、住民税及び事業税	130,371	63,268
法人税等調整額	△24,939	2,005
法人税等合計	105,432	65,273
当期純利益	170,761	160,171
非支配株主に帰属する当期純利益	788	600
親会社株主に帰属する当期純利益	169,973	159,570

（連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前連結会計年度 （自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）	当連結会計年度 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）
当期純利益	170,761	160,171
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36,843	47
その他の包括利益合計	36,843	47
包括利益	207,605	160,218
（内訳）		
親会社株主に係る包括利益	206,816	159,618
非支配株主に係る包括利益	788	600

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価差 額金	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	714,150	553,441	440,261	△5,880	1,701,972	30,562	30,562	842	1,733,376
当期変動額									
剰余金の配当			△20,845		△20,845				△20,845
親会社株主に帰属する 当期純利益			169,973		169,973				169,973
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)						36,843	36,843	788	37,631
当期変動額合計	—	—	149,127	—	149,127	36,843	36,843	788	186,759
当期末残高	714,150	553,441	589,388	△5,880	1,851,099	67,405	67,405	1,630	1,920,136

当連結会計年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価差 額金	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	714,150	553,441	589,388	△5,880	1,851,099	67,405	67,405	1,630	1,920,136
会計方針の変更による 累積的影響額			△3,226		△3,226				△3,226
会計方針の変更を反映し た当期首残高	714,150	553,441	586,162	△5,880	1,847,873	67,405	67,405	1,630	1,916,909
当期変動額									
剰余金の配当			△41,691		△41,691				△41,691
親会社株主に帰属する 当期純利益			159,570		159,570				159,570
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)						47	47	600	648
当期変動額合計	—	—	117,879	—	117,879	47	47	600	118,527
当期末残高	714,150	553,441	704,041	△5,880	1,965,752	67,453	67,453	2,231	2,035,437

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	276,193	225,445
減価償却費	376,231	384,944
減損損失	13,570	2,842
のれん償却額	3,648	3,648
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,090	△331
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2,008	2,906
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4,552	5,237
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	22,943	16,400
受取利息及び受取配当金	△1,479	△1,499
支払利息	11,846	10,931
固定資産売却損益 (△は益)	△706	△2,139
固定資産除却損	2,131	2,082
固定資産圧縮損	—	4,299
売上債権の増減額 (△は増加)	25,969	△13,269
棚卸資産の増減額 (△は増加)	41,387	△165,687
未収入金の増減額 (△は増加)	1,085	74,936
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,038	△44,276
災害による損失	4,719	—
補助金収入	—	△4,373
受取補償金	—	△52,041
その他	74,192	72,527
小計	866,242	522,584
利息及び配当金の受取額	1,479	1,499
利息の支払額	△11,820	△10,985
災害による損失の支払額	△4,719	—
補助金の受取額	—	4,373
法人税等の支払額	△65,314	△153,151
営業活動によるキャッシュ・フロー	785,867	364,319
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△335,198	△497,802
有形固定資産の売却による収入	6,932	7,107
投資有価証券の取得による支出	△17	△17
貸付けによる支出	△1,150	△3,870
貸付金の回収による収入	3,801	4,058
ソフトウェアの取得による支出	△7,533	△6,854
その他	235	112
投資活動によるキャッシュ・フロー	△332,930	△497,265
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	150,000
長期借入れによる収入	250,000	280,000
長期借入金の返済による支出	△366,715	△309,341
配当金の支払額	△20,698	△41,289
リース債務の返済による支出	△7,243	△7,129
財務活動によるキャッシュ・フロー	△144,656	72,239
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	308,279	△60,706
現金及び現金同等物の期首残高	618,608	926,888
現金及び現金同等物の期末残高	926,888	866,182

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった有限会社あきかわ牛乳は、2021年7月1日に当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 連結子会社の事業年度等に関する事項

従来、連結子会社のうち決算日が12月31日である有限会社あきかわ牛乳については、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引について連結上必要な調整を行ってまいりました。

2021年7月1日を効力発生日として、当社が同社を吸収合併することを決定したことを契機に、より適切な連結財務諸表の開示を行うため、第1四半期連結会計期間より連結決算日に本決算に準じた仮決算を行う方法に変更しております。

この変更により、当連結会計年度は、2021年1月1日から2021年6月30日までの6か月間を連結しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来、販売費及び一般管理費に計上しておりました、販売手数料等の顧客に支払われる対価の一部について、取引価格から減額する方法に変更しております。なお、変動対価が含まれる取引については、その不確実性が事後的に解消される際に、収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り、取引価格に含めております。

また、有償支給取引について、従来は有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当連結会計年度の売上高は30,620千円、販売費及び一般管理費は30,326千円それぞれ減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ293千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は3,226千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当連結会計年度より「売掛金」として表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、これにより連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルスの感染拡大が会計上の見積りに与える影響)

新型コロナウイルス感染症の収束時期などを想定することは困難であるものの、現時点で同感染症による当社事業への影響は軽微であるため、翌連結会計年度以後の業績に与える影響は限定的であると仮定して会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業グループごとに取り扱う製品・サービス別のセグメントについて、包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業グループごとに取り扱う製品・サービス別のセグメントから構成されており、「生産卸売事業」と「直販事業」の2つを報告セグメントとしております。

「生産卸売事業」は、主に産直型の生活協同組合や宅配会社向けに、鶏肉、冷凍加工食品、鶏卵および牛乳等の生産・販売をしております。「直販事業」は、当社の食品を中心とした食品と生活雑貨を会員向けに販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益（のれん償却前）ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は各セグメントにおける製造原価の状況を勘案し、双方協議に基づいて取引を行っております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自2020年4月1日 至2021年3月31日）

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	生産卸売	直販	
売上高			
外部顧客への売上高	4,984,321	1,433,321	6,417,643
セグメント間の内部売上高 又は振替高	418,938	7,612	426,551
計	5,403,260	1,440,934	6,844,194
セグメント利益	559,110	45,038	604,148
セグメント資産	4,108,087	211,348	4,319,435
その他の項目			
減価償却費	340,966	14,021	354,988
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	308,556	44,424	352,980

当連結会計年度（自2021年4月1日 至2022年3月31日）

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	生産卸売	直販	
売上高			
外部顧客への売上高	4,996,598	1,642,128	6,638,727
セグメント間の内部売上高 又は振替高	409,673	5,987	415,661
計	5,406,271	1,648,116	7,054,388
セグメント利益	426,238	52,111	478,349
セグメント資産	4,286,096	230,699	4,516,796
その他の項目			
減価償却費	349,730	13,702	363,432
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	458,166	14,090	472,256

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	6,844,194	7,054,388
セグメント間取引消去	△426,551	△415,661
連結財務諸表の売上高	6,417,643	6,638,727

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	604,148	478,349
のれんの償却額	△3,648	△3,648
全社費用（注）	△334,946	△359,023
連結財務諸表の営業利益	265,554	115,677

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び品質管理費用であります。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	4,319,435	4,516,796
全社資産（注）	1,059,059	1,076,724
連結財務諸表の資産合計	5,378,494	5,593,521

（注）全社資産は、主に当社グループにおける余資運用資金（現金及び預金他）、長期投資資金（投資有価証券他）及び管理部門に係る資産等であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	354,988	363,432	21,243	21,511	376,231	384,944
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	352,980	472,256	27,663	22,143	380,643	494,400

（注）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各セグメントに属さない本社の構築物及び工具、器具及び備品等の設備投資額であります。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）	当連結会計年度 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）
1株当たり純資産額	460.17円	487.68円
1株当たり当期純利益	40.77円	38.27円

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）	当連結会計年度 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 （千円）	169,973	159,570
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期 純利益（千円）	169,973	159,570
普通株式の期中平均株式数（千株）	4,169	4,169

（重要な後発事象）

該当事項はありません。